

教職員の力量を組織的に高める学校力向上の取組 ～チームを活用した学校改善・授業改善の取組～

稚内市立稚内東小学校 学級数 17 (校長 坂本 孝行)

1 はじめに

本校は、学校教育目標の実現に向け、「～学ぶ喜びを味わい、共に創り出す喜びを味わう～『笑顔あふれる東小』」をスローガンに掲げ、子どもが安心して楽しく学べる教育活動を推進している。また、平成26年度から「学校力向上に関する総合実践事業」の実践指定校の指定を受け、「チームとしての包括的な学校改善」に取り組んでいる。



2 昨年度の学校力向上に関する総合実践事業の取組の成果と課題を踏まえた重点の設定

昨年度、本校では「組織的、計画的な校内研修による指導力の向上」「チームとして統一した指導による指導力の向上」「保護者・地域、東地区一貫、医療・福祉との連携による教師力の向上」の3つを重点とし、学校のチーム力はもとより、教員一人一人の力量の向上を図る取組を進めてきた。

その結果、教科部会と学年部会との連携による授業づくりに関する研修体制の構築や、学習規律「4つの約束」の一貫・徹底した取組による教員の指導力の向上が図られた。



【学習規律の指導による、落ち着いた雰囲気での授業】

一方、「分掌や学年代表等のミドルリーダーの育成を図るシステムの構築」「教育の質の向上を図る業務改善」「教職員の専門性や指導力を高める効果的な校内研修の充実」が課題として挙げられた。

そのため、今年度は「ミドルリーダーの育成及び業務改善を図るシステムの構築」と「教員の指導力の向上を図る組織的な校内研修の充実」を重点として学校のチーム力はもとより、教員一人一人の力量を向上させていく取組を進めている。

3 実践の概要

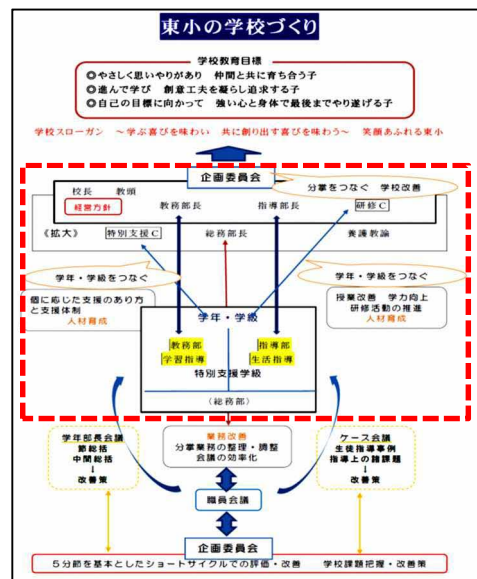
(1) ミドルリーダーの育成及び業務の効率化を図るシステムの構築

これまで、校長の方針に基づく取組については、各分掌等で検討した内容を職員会議で部長が提案し、全教職員の意見を聴取した上で校長が決定するというシステムであったが、今年度からは、校長、教頭、分掌部長等で構成する企画委員会を意志決定の中心に据えたシステムに変更した。

○ ミドルリーダーの育成を図る意志決定システムの構築

企画委員会では、校長が学校課題の解決に向けた方向性等を指示し、構成員で取組内容やスケジュールなどを検討している。企画委員会での検討で校長の承認を得られた内容については、放課後の職員終会で全教職員に周知し、迅速に取組を開始している。

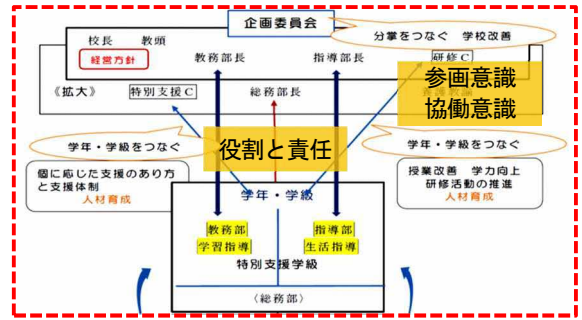
また、教育課程の改善や各種行事内容の見直しなど、具体的な取組の検討が必要な場合は、関係する分掌で協



【意志決定過程を明確にした「東小の学校づくり」】

議を行うとともに、次の企画委員会で部長が提案し、構成員で検討した上で校長が決定している。

企画委員会を意志決定の場としたことにより、分掌部長等のミドルリーダーの経営参画意識や協働意識が高まるとともに、分掌等で検討した内容を提案することにより自身の役割と責任を自覚するようになった。



【ミドルリーダーの育成を図る企画委員会】

○ 業務の効率化を図る組織的な取組

本校では、各学年部会の教員が教務部と生徒指導部に所属するよう体制づくりを整備しており、企画委員会で校長が決定した取組の詳細については、学年部会において各分掌に所属する教員が説明し、全教職員の共通理解の下で取組を進めている。

また、働き方改革に関する業務は、事務職員が所属する総務部が担当し、これまで学年や学級で行ってきた学校行事、校外学習等の渉外、諸会議の効率化、学年サポート（学年会計・各種テスト集計等）、各種外部機関・専門機関との連携などの取組を率先して進めるとともに、事務職員を中心に校内ネットワーク内のフォルダの整理や、教員が共有資料を迅速に閲覧できるシステムを構築するなど、学校全体の業務の効率化を図っている。

このように、意志決定システムの構築や各分掌の業務内容の精選、見直しなどを進めたことにより、職員会議や分掌会議の回数・時間が縮減され、教員の指導力を高める校内研修の機会や教材研究の時間を確保できるようになった。

(2) 教員の指導力の向上に向けた組織的な校内研修の充実

学校の教育目標の実現を図るには、各教科等の指導を通して育成する資質・能力を明確にするとともに、その達成に向けて日常の教育活動を展開していく必要がある

しかし、本校の初任段階教員と中堅・ベテラン教員の指導を比較した場合、当然のことながら学級経営や教科指導などの面において差が見られる。

そのため、本校では研修コーディネーターを配置し、「教える・教わることで教員相互の指導力の向上を図る組織的な校内研修」を目指して、「校内研修」「学校研究」「基礎学力」の3つの取組を関連させながら校内研修を推進している。

組織的な校内研修の充実に向けて

■ 研修コーディネーターの役割

- 研修の計画、研究内容等の立案
- 各種調査やアンケート等の考察と分析
- 日程調整（研究授業、校内研修等）
- 授業観察による授業改善の状況把握
- 研修だよりの発行 など

指導力を高める校内研修

研修成果を生かす

学習意欲アンケートから見えること

先日取り組んでいた学習意欲アンケートの結果をまとめました。学年別の集計などは別紙をご覧ください。その中で、特徴的な項目を見てみましょう。

分析結果を生かす

「毎年のふたつの項目は着実な改善が感じられるので、「うちの学年が…」とは思わないでください。現各学年の子と比べて、より東小が抱える課題ととらえましょう。」

アンケート結果の考察

子どもの力を伸ばす 学校研究

理論研究・授業研
「自分で考える/話し合う・教え合う/振り返る」の具体化。

日常の授業づくり
・学年部会を中心に単元づくりや授業づくりを意図。

先生方が力を付ける 校内研修

研修日の活用
各分掌、たんぼほ部会と連携。「節」を意識した実践的な研究を組織。メンター研修、実技研など様々な手法を模索

記録・発信(学ぶ門には福来る)
各学年・教科の実践を、学校研究を深める観点で適宜発信。

子どもたちの学ぶ力を育む 基礎学力

自主学習・宿題に関すること
学習意欲・学習状況アンケート
CRT・チャレンジテストの考察と分析

学問には福来る 検証結果を生かす

子どもたちにとっての学びの興味を考へよう機会に!

今年度さいしょの授業研究です！

子どもたちは「学問には福来る」をテーマに、自分たちの学びの意図を明らかにし、実践的な研究を行いました。その結果、子どもたちの学びの意図が明らかになりました。その結果、子どもたちの学びの意図が明らかになりました。その結果、子どもたちの学びの意図が明らかになりました。

検証結果を生かす

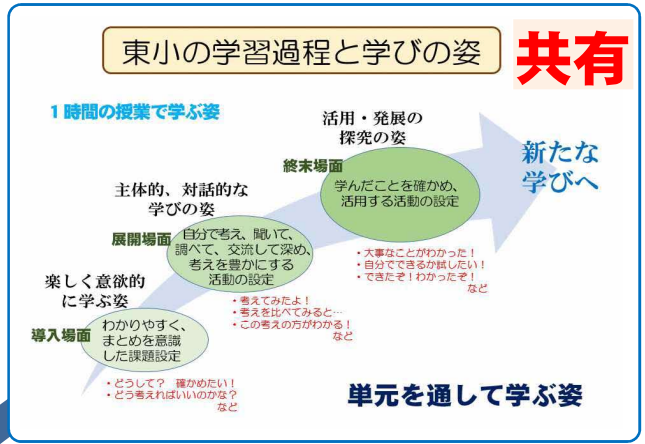
研修だよりの発行

関連

○ 子どもの力を伸ばす組織的な学校研究

各教科等で目指す資質・能力の育成に向け、今年度の研究主題を「確かな学力を育てる ～単元・題材を見通した授業づくりの工夫～」と設定し、年度始めに全教職員で「東小の学習過程と学びの姿」を共通した。

また、理論研究において「宗谷管内 授業改善に向けた『5つのポイント』」と、本校で共通して取り組む1単位時間の指導のポイントとを関連させた「主体的・対話的な学び」について理解を深めるとともに、各学年部会を中心に言語活動を効果的に取り入れた単元構想や、課題提示と学習のまとめをつなぐ学習活動に着目した授業改善を進め、研究授業を通して取組の検証・改善を図っている。



共通理解

令和2年度 授業改善に向けた『5つのポイント』

宗谷管内

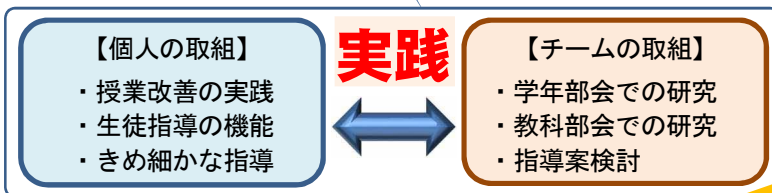
本ポイントは、昨年度の「宗谷管内授業改善に向けた『5つのポイント』」の成果を生かし、定められる資質・能力を育む観点から整理した構成です。主体的・対話的に学びを実現するために活用ください。

- 育成を目指す資質・能力を踏まえた課題を提示する。
◆課題に対する課題意識が高まるようにします。
- 課題を見出し解決策を考えたり、自らの考えを形成したりする活動を行う。
◆既習内容、生活経験などを手掛かりに考えたり、情報を精査して考えを形成したりできるようにします。
- 自らの考えを上げたり、深めたりする活動を行う。
◆考えを伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりできるようにします。
- 一人一人の学習状況を見取り、個に応じた指導を行う。
◆一人一人に対して事前に想定していた支援策を話し、育成を目指す資質・能力が身に付くようにします。
- 学習のまとめと学習したことを振り返る活動を行う。
◆学習内容の理解や学習したことの意義や価値などが実感できるようにします。

宗谷管内学力向上推進会議

導入	1	導入で問題意識を持たせる。 (観点例) ① 既習事項を確認した。 ② 興味・関心、疑問を持たせる手立てをとった。 ③ 子どもの疑問等を生かした課題を設定した。
展開	2	問題解決の方法を工夫 (観点例) ① 解決の見通しを持たせた ② 解決に適した学習形態を工夫した。 ③ 解決に必要な情報を十分に用意した。
	3	思考整理の場を設ける (観点例) ① 個の考えを整理する時間を確保した。 ② ノート等を活用する指導をした。 ③ 言語活動を取り入れた。
	4	思考を深める場を設ける (観点例) ① 自分の考えをわかりやすく説明する指導をした。 ② 学び合う活動を取り入れた。 ③ 学び合う中で、自分の考えを深める指導をした。
まとめ	5	学習のまとめを行う。 (観点例) ① 学習したことが身についたかを確認した。 ② 自己評価や相互評価などの活動を行った。 ③ 次の課題など、学習への関心や意欲を持たせた。

【共通して取り組む1単位時間の指導のポイント】



検証の結果、全教職員で共有した効果的な指導

○ 全教員が力を付ける組織的な校内研修

本校では、全教職員の指導力の向上及び若手教員の育成に向けて、ミニ研修と、メンター研修を実施している。

教員の分掌業務や教材研究等の時間を確保するため、研修時間については、両研修ともに30分程度と短時間で設定している。

また、研修内容については、研究コーディネーターが分掌部長や学年部長等と連携し、児童

	ミニ研修	メンター研修
実施	週1回程度	月1回程度
時間	30分程度	30分程度
内容	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の見直し 授業づくりと評価 学習規律 実技(体育授業) プログラミング など 	<ul style="list-style-type: none"> 学級集団づくり 保護者との連携 教室環境 学習支援 子ども理解 など

の実態や教職員のニーズ等を踏まえて計画を立案している。

このような研修は、若手教員にとっては、先輩教員から具体的な実践を学び、翌日からの授業等の改善に生かす機会、中堅・ベテラン教員にとっては、若手教員からの質問に対して自身の実践を振り返り、改善する機会となっており、全教職員の指導力の向上につながっている。



【指導力向上に向けたミニ研修・メンター研修】

4 成果と課題

(1) 成果

- ミドルリーダーの育成及び業務の効率化を図るシステムの構築
 - ・分掌部長等のミドルリーダーを中心とした組織体制を確立したことにより、教職員の経営参画意識が高まり、各分掌の業務が主体的に進められるとともに、若手教員も自分の役割を自覚するようになり、チームとしての分掌運営が円滑に進められた。
 - ・会議内容の精選とそれに伴う資料準備の効率化、ミッション加配の事務職員による「働き方改善」等の取組により、教職員の時間外勤務の縮減につながった。
- 教員の指導力の向上に向けた組織的な校内研修の充実
 - ・学年・学級をつなぐ役割として研修コーディネーターを位置付けたことにより、学年間の情報共有が進み、系統性を踏まえた授業改善を組織的に進めることができた。
 - ・各種調査の結果と各学年の学習状況を関連付けた校内研修を行ったことにより、児童の実態の適切な把握に基づく指導改善の方策について、全ての教員で共通理解を図ることができ、本校で目指す学習過程を踏まえた指導に組織的に取り組むことができた。

(2) 課題

- 組織的な取組の中で新たなミドルリーダーの育成を図るため、より一層学校改善を進めていく必要がある。
- 児童の基礎学力の向上や学習習慣の確立を図るため、研修コーディネーターと分掌部長との連携による取組を推進していく必要がある。